※令和４年度以降入学生用

学校番号	3029

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校「生物基礎」（第一学習社）						
副教材等	スクエア最新図説生物(第一学習社)，リードα生物基礎＋生物(数研出版)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

最近の生物学は新しい知識がどんどんバージョンアップされるので，積極的に，いろいろなものを吸収する心構えが重要である。

授業について

ア．しっかりと定着していない事項があれば，すぐに教科書や図説を見直して確認する，という心がけが大切である。

イ．黒板に書かれたことをプリントやノートに写すだけではいけない。自分なりに理解した上で必要な事項を判断して書き込む習慣をつける。

ウ．わからないことが出てくれば，そのままにしておかずに積極的に質問して解決しよう。

実験について

ア．実験ではいろいろな薬品や器具を用いることが多い。これらの薬品や器具類をいい加減に扱うと危険な場合もあるので，実験室では静かな態度で先生の指示を聞き，注意は必ず守ろう。

イ．実験の目的をしっかり理解し，結果を予想しつつ実験を進め，結果を正確に記録して考察しよう。

２　学習の到達目標

１．細胞、代謝、遺伝子など生物が共通してもつ特徴を学び、生命のしくみを理解する。
２．目的意識をもって観察・実験などを行い、生物を科学的に探究する能力と技術を身につける。
３．生物の基本的概念や法則を環境や社会、日常生活と関連付けて考察し、表現する力を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期期末考査まで	生物の特徴	生物の共通性 生物とエネルギー	a.細胞という基本構造について理解している。酵素などタンパク質の働きを理解している。 b.生物の多様性と進化や系統について考察し、表現できる。 c.身の回りの生物に興味を持ち、物質から生命現象を考えようとする態度を身に着けている。	考査	考査	課題 実験レポート
	遺伝子とその働き	遺伝子の本体と構造 遺伝情報とタンパク質	a.ＤＮＡ、ＲＮＡ、タンパク質の構造と特徴を理解している。セントラルドグマの過程を理解している。 b.遺伝や細胞の分化、発生などの現象をＤＮＡ→タンパク質という流れの中で考察し、表現できる。 c.身近な生命現象に気づき、ＤＮＡに基づいて考えようとしている。	考査	考査	課題 実験レポート
後期期末考査まで	ヒトのからだの調節	情報の伝達と体内環境の維持 免疫	a.体内における情報の伝達と体の調節の関係を理解する。体内環境が維持される仕組みや免疫を理解する。 b.多細胞生物の体内の仕組みを情報の伝達という観点から考察し、表現できる。 c.体の仕組みに興味を持ち、疾病などについて科学的に考える態度が身についている。	考査	考査	課題 実験レポート
	植生と遷移・生態系とその保全	植生の遷移 バイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	a.植生が遷移すること、多様なバイオームが成立していることを理解する。生態系における生物間の関係について理解する。 b.生物を集団としてみた場合の考え方を身に着けている。 c.生態系の保全の重要性を理解し、保全のために自分ができることを考えられる。	考査	考査	課題 実験レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度